

# 新緑に彩られた城山

じょうやま

## 新芽が萌える城山へ

4月中旬、街では桜の花が咲き誇っている。そして山々では、そろそろ新芽の季節を迎えるところである。爽やかな春風に誘われ、城山へと向かった。

城山は、七尾市街地から東南へ約5kmの位置にある。麓にある七尾城史資料館の前を通り過ぎ、大手の古道（旧道）から登った。

しばらく歩いていくと、舗装された道路が途切れ、山道が続いている。一步足を踏み入れると、ひんやりとした空気が漂っているように感じた。行く道々には、スミレや、イチゴ、シヨウジョウバカマや、山桜などさまざまな植物を観ることができた。

さらに、落ち葉を踏みしめるように一歩一歩急勾配の道



急勾配の道

を進んでいくと、ホトトギスなどいろいろな鳥の鳴き声や川のせせらぎが聞こえてきた。長年の風雪に耐えながら成長した、スギやマツなど、雪の重みなどで、木の幹や枝が湾曲したものが数多くあった。それらがまるで、自然のオブジェのように目を楽しませてくれた。

湾曲した杉の木

## 能登畠山氏の山城

七尾城跡

七尾城は、今から500年程前の戦国時代に能登の守護畠山氏の居城として城山に築かれた山城で、巨大な規模と要害を利用した築城技術は、国内でも屈指として注目されている。

さらに麓には、「千門万戸」と謳われた城下町も形成されていたことが、発掘調査により確認されてきている。

第七代畠山義総の治世には、「畠山文化」と称される文芸活動が花開き、画聖長谷川等伯も輩出している。

その後、七尾城は戦国時代後期の1577年には、越後国の上杉謙信により落とされ



ているが、謙信は本丸に立った時、「賀越能（加賀・越中能登）金目の地形」と感動している。

9月の七尾城まつりには、往時を偲んで、儒学者頼山陽が仮作した「九月十三夜陣中作」の全国詩吟大会が開催されている。

昭和9年には、国の史跡に指定されており、現在は、日本名城百選の一つにも数えられている。



道々に咲くスマイレ

## 美しい日本の

## 歴史的風土準百選

尾根づたいにどんどん歩き、樋の水（城内の水源で枯れたことがないといわれる）の前を通ると、いよいよ本丸跡に近づく。



石段を登り、ようやく本丸跡へ

苔むした石段を登ると、杉の巨木が立ち並んでいる。その奥には、調度丸から桜馬場にかけての石垣が見える。さらに石段を登ると、ようやく本丸跡にたどり着いた。一つの達成感と、心地良い疲労感が、身体を包んでくれた。

七尾城跡は、今年の3月に「美しい日本の歴史的風土準百選」として選定された。

これは、歴史的な町並みや遺跡、城址など、歴史的・文化的資産が、その周りの山丘や自然環境と一体となって、美しい歴史的風土を形成している地域が選ばれるものである。

もうすぐ、城山は若葉の緑に彩られ、新緑の季節を迎える。去る、3月25日に起こった

能登半島地震では、石垣の一部が崩落したが、次の世代につないでいく美しい日本の歴史的風土として未永く七尾市民に愛されることと、七尾市そして能登半島の復興を心から願う。



城山展望台から見た七尾城跡



## DATA 七尾城本丸跡



七尾城史資料館から本丸跡までは、旧道から登ると約2300メートルある。本丸にたどり着くまでは、急勾配な道が数ヶ所ある。中には、七曲がりという七つの急な曲がり角が続くところもある。それらの道を登ると、標高約300メートルのところに本丸跡があり、七尾湾や能登島などが見渡せ、パノラマの景色を楽しめる。